詫間中学校学校通信　　輝　跡　～ 仲間を信じ輝く道へ ～

浦島伝説

令和７年１０月　３日
第　２０ 号

役に立つことだけが重要か？

第18号では、**何の役に立つのかを先に知りたいタイプ**と、**理由を先に知りたいタイプ**の人がいるという紹介をしました。

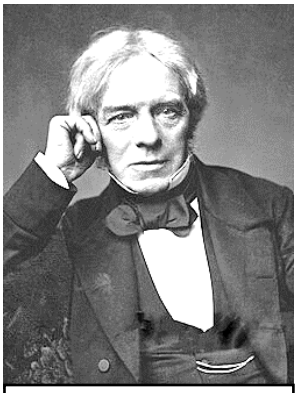
よく「学校の勉強が将来、何の役に立つのか」と聞かれることがあります。「役に立つ」ということは確かに大切です。しかし世の中に、「一見、役に立たないこと」に意味をもたらし、価値を求めることがあります。

例えば、この世に燃費のよいエコカーさえあれば、当然それは有用で役に立ちます。世の中それだけがあれば実用上問題ありません。しかし、現実には、エコとは対極の高級なスポーツカーが存在し、それを求める人がいます。また、燃費も悪く税金が高くてもレトロなクラシックカーを買う人もいます。同じ自動車でありながら、まったく異なった「意味（価値）」を求めているのです。

人工知能（AI）は『役に立つ』を得意としています。一方でその役に立つ以外の『意味（価値）』をもたらすのは人間です。

また、「役に立つか／立たないか」は、短期間では判断できません。

例えば、19 世紀の科学者ファラデーが大勢の前で電気の実験を実演し、電気の存在を紹介しているとき、「それがいったい何の役に立つのか？」と質問した聴衆がいたことは有名です。（現代、「電気は何の役に立つのか」という質問する人はいないでしょう…）


マイケル・ファラデー

「すぐに役に立つ本はすぐに役に立たなくなる本である」

何百年も読み継がれる本や思想、言葉…。それらは、パッと見は抽象的ですぐには役に立たないかもしれません。しかし、それは人間の本質をついたものといえるでしょう。特に今の時代は技術革新が激しく、今必要とされているスキルや知識も、ほんの数年先にそれが必要かどうか分かりません。すぐに役に立つものに目を奪われず、我々はもっと普遍的な教養が必要なのかもしれません。

「無用の用（むようのよう）」とは、一見役に立たない（無用）ように見えるものが、実は本質的に重要な役割を果たしている、ということを意味する言葉です。中国の古典『荘子（そうし）』に由来し、見える効率や結果にとらわれず、時間をかけて見えてくる価値や見落とされがちな役割に目を向けることの重要性をといています。

流行りの「コスパ」とか、「タイパ」の真逆の考えですね。